

横たわる困難を乗り越え 正義の闘いをすすめよう

弁護士 藤 本 正

(一) 第一回公判——法廷を圧倒した。

十一月十日、われわれの裁判闘争は、第一回公判の火ぶたを切った。限りなく怒りと、悲しみと、うらみに燃え、そして断固たる責任追及の闘いへの誓いに身をたぎらせた、十一月九日。

あの日から奇しくも十年目の、ちよと翌日に当たる十一月十日に、第一回公判闘争を迎えたというそのこと自体、四百五十八名の命を奪われた仲間達の、見えざる力のもたらしたものである、とい

た。怒りと、真実と、正義の声を、十一月十日、われわれの裁判闘争は、第一回公判の火ぶたを切った。限りなく怒りと、悲しみと、うらみに燃え、そして断固たる責任追及の闘いへの誓いに身をたぎらせた、十一月九日。

ものであるか、ということこそ、何らないし、またできるはずである。第一回公判を終えて、弁護側は、自らの任務の重大性を、今さらのように痛感すること

「本件裁判には、検察官が原因不明としてしまったように、その原因論においても、また時効論に、まことに貴重なものであつた。また第一回公判を頂点とする数

あがり、かくて真の意味での三救助の決定がでるまでないかは、この裁判の今後の闘いに重大な意味をもつていた。

それはかりではない。訴訟救助

らかにしたのである。

決定は、原告が貧困であることととも、訴訟の見通しのあること

つ生み出している。しかしすでに述べたように、本件には多くの困難な裁判上の問題をかかえてい

三井鉱山が支払ったのは、弔慰金

ないのでしょうか。

原告団代表陳述



夫や父、息子たちの怒りを胸に、いよいよ第一回公判へ。

大量殺人犯に勲章 遺族には涙の日々

遺族代表 溝口生松

原告のうちの遺族を代表し、意

涙も出ず、「苦しかったらう」

私はいくらあがる気力もありません

もう立ちあがる気力もありません

私はいくらあがる気力もありません

どちらが加害者か どちらが被害者か

患者代表 小川紘志

原告の、小川紘志です。CO患

私がいかに悪いことをしたから

× × ×